

## 目 次

井内 昇先生近影

井内 昇先生最終講義・退官記念パーティ風景

井内 昇先生のご退官にあたって……………	内 藤 博 夫……………	1
今日が始まり……………	井 内 昇……………	2
井内 昇教授履歴……………		3
井内 昇教授著作目録……………		4

### 献呈論文

芭蕉七部集の歌仙における大気現象について

—『阿羅野』・『ひさご』・『炭俵』・『續猿蓑』の場合—……………	田 宮 兵 衛……………	8
ガーデン・シティ政策からみたシンガポールの緑……………	中 島 直 子……………	21
ろう学校における手話表現に関する一考察……………	原 裕 子……………	31
京都における1854年から1871年の気候……………	小笠原 洋 子……………	40

### 短 報

秩父地方における医療資源の分配と高齢者の受療行動……………	武 田 純 子……………	48
江戸における名所の立地について —隅田川を事例に—……………	田 島 美 香……………	59
東京都大田区における在日韓国人高齢者の就業状況……………	曹 賢 美……………	72

### 資 料

オーストラリアにおける海外からの留学生 —マレーシアの事例を中心に—

Overseas Students in Australia, with a Special Reference to Malaysia

カーティス・アンダーソン (Curtis Andressen) ……	82
------------------------------------	----

### 卒業論文要旨

東京都23区における在留外国人の地理学的考察……………	浅 野 し の……………	90
日本の地下街の現状 —JR川崎駅前アゼリアをフィールドに—……………	池 田 道 子……………	91
近郊野菜産地における近年の変化		
—神奈川県三浦市における輪作体系を中心に—……………	石 井 史 子……………	92
足利市の繊維工業に関する地理学的考察……………	川 田 陽 子……………	93
埼玉県草加市における工業化の地域的展開……………	国 友 尚 子……………	94
世田谷区の下水道普及に関する地理学的考察……………	小 池 桃 子……………	95
大都市圏における副都心の発達と機能分担……………	佐 藤 錫 子……………	96

磐田原台地における地形発達	鈴木香織	97
平賀町の農業と出稼ぎに関する考察	鈴木美香	98
駅ターミナルにおける駐車場利用の現状と問題点	鈴木美千代	99
四日市市における商業地域の形成と機能	高橋香織	100
東京湾臨海埋立地における都市開発 —千葉県浦安市を事例として—	田中理夏子	101
立川飛行場周辺地域の変容について —軍事施設の影響を中心に—	松山薫	102
伝統的地場産業地域における現状と問題点 —福井県今立町を事例に—	三田村亜矢子	103
北九州市における最近の傾向	村上明代	104
農産物の流通から見た主産地の形成 —千葉県八街市を事例として—	森本泉	105
神奈川県酸性雨について—大和、戸塚、平塚を事例として—	山根昌子	106
ごみ収集車の収集ルートについて	山本佳代子	107

## 巡検報告

東京湾沿岸巡検	千田智子	108
秩父農山村巡検	穴口朋子	109
米沢巡検	濱真由美	110
福井・大野巡検	藤本典子	111
東京区内巡検	五味田恵美子	112
横浜再開発巡検	小林敬子	113
東京中心部流通・交通施設巡検	若麻績明里	114
福井一日巡検	長尾洋子	115
郡内地方巡検	荒木美智子	116
館山巡検	影山穂波	117
仙台近郊巡検	山本佳世子	118
大阪市街地巡検	中出フヂ子	119
お茶の木地理学会見学会	平山隆子	120

## 近況・随筆

中学校同期生の進路	内藤博夫	121
奇想天外ノススメ	杉谷隆	122
ニューギニアの食文化、または私が食べることにこだわるようになった訳	熊谷圭知	123
ブッパータール —ドイツ産業革命の発祥地—	伊藤喜栄	124
変貌する中国をみて —香港からミャンマーへ—	江波戸昭	125
やっぱりカナダ!?	栗原武美子	126
マレーシアのタマンネガラ国立公園 —たった一人のツアー旅行—	立石友男	127
鬼怒川の探検	田林明	128

コケゴッポー	二 瓶 直 子	129
停年坂	正 井 泰 夫	130
肥前国 島原半島への旅のいざない	瀧 野 實	131
後輩の先輩・井内先生	千 歳 壽 一	132
夜も学校に居ることについて	田 宮 兵 衛	133
節目	栗 原 尚 子	134
井内先生へ（贈る言葉）	須野原 智恵子	135
井内先生の退官によせて	広 瀬 比 苗 子	136
井内先生の思い出	時 村 童 子	137
井内先生のこと	葉 倩 瑋	138
学会だより		139